



「ミズベリング前橋～広瀬川河畔緑地社会実験～」 を実施しました

前橋市 都市計画部 市街地整備課

■ 社会実験の概要

前橋市が令和元年9月に策定した官民協働のまちづくり指針である「前橋市アーバンデザイン」の中で、モデルプロジェクトの一つに位置付けられている広瀬川。その更なる賑わいにつながる河畔緑地の整備が動き出しています。

今回の社会実験「ミズベリング前橋」は、広瀬川河畔緑地の整備後の空間を実現するためにアメニティ(既存手摺へのカウンター取り付けや人工芝の敷設)を仮設し、皆さんに使っていただくことで得られたご意見などを実際の整備内容にフィードバックすることを目的として実施しました。また、遊休不動産を活用した「リノベーションまちづくり」の展示ブースを設けることで、市民の皆さんに前橋市の取り組みを知っていただく機会としました。



「ミズベリング前橋」ロゴ



既存手摺に取り付けたカウンター



誰でも使える人工芝エリア

■ そもそも「ミズベリング」って何？

「ミズベリング」とは、「水辺+RING(輪)」と「水辺+R(リノベーション)+ing(現在進行形)」を意味する造語であり、海辺や川辺といった水辺空間の新しい可能性を創造して地域を活性化させようとする全国的なプロジェクトの総称です。水辺が好きで、水辺を良くしたいという思いがある人なら、誰でも参加できるものです。

詳しくは→ <https://mizbering.jp> にアクセス！

■ 実施体制

今回は公共空間や民地を活用してキッチンカーを配置し、テーブル、イスなどを並べて飲食を楽しむイベントである「広瀬川 night テラス」(主催：広瀬川 night テラス実行委員会、ぐんま家守合同会社)を前橋市が後援す



る形を採りながら「ミズベリング前橋」を合わせて実施しました。コロナ禍におけるイベント開催ということもあり、ソーシャルディスタンスの確保やフィジカルな接触機会の低減といった感染防止対策に関する設えをイベントに反映するため、前橋市も同実行委員会に積極的に協力し、打ち合わせを入念に行いました。

■ 結果(社会実験とイベントの両面から)

約280件のアンケート結果からは、広瀬川というロケーションが高く評価されているだけでなく、仮設の手摺カウンターや人工芝エリアの満足度の高さ、またイベントの日常化を望む声が非常に多いことがわかりました。さらに、本市が取り組む「リノベーションまちづくり」についても好意的な意見が見られ、広瀬川河畔における賑わいのニーズは非常に大きいものであることを再認識する結果となりました。

また、キッチンカー事業者に対しては、現地の使用感や今後の整備に望むことを調査するためのアンケートに加え、社会実験終了後に本市と直接のヒアリング機会を設けることで、こういった場所に出店を希望するか、一回の出店でどの程度の収益を望むかといった事業者側のリアルな意見をお聞きすることができました。今回の社会実験によって得られたこれらデータの集積は、今後の河畔整備の参考になるものと考えています。

イベントとしては週末のみの7日間という限られた期間ではありながら、多くの集客が得られました。キッチンカーやテーブルなどを余裕を持って配置することで、広々とした会場レイアウトとなり、密集を避けた設えでの実施となりました。最大で6店舗が同時に出店を行った日もあり、日が落ちた後の広瀬川河畔にキッチンカーの明かりと共に、人々が集う光景は、今後の広瀬川活用の可能性を感じさせるものでした。

■ まとめ

「広瀬川 night テラス」には、前橋市の後援のほか、公益社団法人前橋青年会議所と前橋商工会議所青年部緑水会が共催として参加しました。今回のケースは、まちづくりに関わる複数のステークホルダーが官民の垣根を越えてつながりを持ち、連携を図りながら一つの催しを成功に導いた好事例となったと考えています。客観的なデータとニーズに基づいた整備はもちろんのこと、今後も引き続きエリア価値を高める取り組みを官民で連携しながら継続的に進め、民間による持続的・安定的なまちづくり活動につなげていくこと(=アーバンデザインの実現)を目指します。



イベントポスター



賑わい溢れる広瀬川！

